

日本建築学会北海道支部 2006 年度第 5 回常議員会議事録

記：星

日時：平成 19 年 4 月 24 日 18:30～20:00

場所：日本建築学会北海道支部事務所（北海道建設会館 9 階中会議室）

出席：支部長：繪内

常議員：小篠、澤田、田中、玉木、藤原、伊藤、齊藤、鈴木、深澤、星、溝口

代議員：石山、那須、武田、飯田、城

総務委員会委員長：羽山

オブザーバー：伊東、大澤、菅原、田川、長谷川、中渡

事務局：菊地

配布資料

前回（2006 年度第 4 回常議員会）議事録(案)	資料 5-1
理事会・支部長会議報告（支部長より）	資料 5-2
支部役員選挙結果について	資料 5-3-
2006 年度決算報告について	資料 5-3-
2007 年度予算案について	資料 5-3-
支部通常総会議案について	資料 5-3
北海道支部技術賞について	資料 5-4
本部災害調査委員会市民講座企画案の応募について （支部都市防災専門委員会より）	回覧資料
委員会委員の委嘱について	回覧資料
後援、共催依頼について	回覧資料
1．シンポジウム「建築と設備の一体化」	
2．研修会「これまでの研究を振り返って - 研究業績の紹介と積雪寒冷地における今後の研究課題 - 」	

司会：小篠

議事内容

- 0 自己紹介（新役員との合同会議のため）
- 1 前回（2006 年度第 5 回常議員会）議事録の確認（星 / 資料 5-1）
 - ・修正無し
- 2 本部理事会・支部長会議報告（支部長より）（繪内 / 資料 5-2）
 - 4 月理事会 報告（特に留意すべき 2 題）
 - ・ 「より良い建築を作るための提言（案）」について
建築主に対して建築企画書（ブリーフ）を明確にしてもらうことで、建築生産プロセス全体の透明性を確保することを目的として学会が提言書（案）を作成中。
 - ・ 「建造物の評価と保存活用ガイドライン（案）」について

歴史的文化財としての保存ではなく、比較的新しい施設の保存についてのガイドライン(案)を作成中。

3 支部役員選挙結果について (齊藤 / 資料 5-3-)

- ・ 常議員選挙の開票は、2007年4月12日
選挙管理委員5名(菊地委員長、齊藤、深澤、羽山、星)により開票。7名が決定。
(伊東敏幸君、大澤一彦君、菅原秀見君、田川正毅君、長谷川拓哉君、福島明君、中渡憲彦君)
(幹事は、伊東君、長谷川君)
- ・ 代議員は、本部選挙により新任3名が決定。(飯田雅史君、猪俣宣夫君、城攻君)
- ・ 新任支部監事は、退任代議員の那須君を本常議会にて選出。

4 2006年度決算報告について (羽山 / 資料 5-3-)

- ・ 財産目録：学術振興基金の減額、予定通り
繰越金は、約340千円減額(事務所移転等による)
- ・ 収支決算：*印の8項目について詳細説明あり(議案書では、本内容は説明しない予定)
経営助成金の150千円の減額は、会員数の減による。
増減があり、全体で差額29,000円となった。
- ・ 石山代議員より：建築学会が学術団体として公益法人化する場合、市民・社会への貢献が必要。事業の50%以上を貢献活動とする必要がある。さらに、認定時に2年程度の実績を積み上げておく必要がある。本部や他の支部の比率は低いようだが、北海道支部は貢献活動が40%程度と比較的高い。50%となるように今から対応が必要。

5 2007年度予算案について (羽山 / 資料 5-3-)

- ・ 収支予算書：*印の13項目について詳細説明あり(議案書では、本内容は説明しない予定)
事業交付金が本部の経営状況の変化により減額となるので、各経費の削減が必要。
支部の移転費用で2007年予算となるものもある。(椅子等)
建築賞の受賞講演会は、教育文化事業費とする。
シンポジウム等経費の250千円の減額は、きつい。(小篠)
減額しないと予算が立てられない。(羽山)
本部は、支部が交付金を減額できるようにすることを求めている。(支部長)
収入を増やす努力も必要。

6 支部通常総会議案について (司会 / 資料 5-3)

- ・ 議案書の内容についての説明。
- ・ 特定課題研究委員会「寒中コンクリート調査研究委員会」の活動は、2006年度にて完了。
- ・ 議案書の内容については、各専門委員会主査により説明の予定。
- ・ 議案書の段落ずれや誤字・脱字は、訂正する。
- ・ 委員会活動においてオブザーバーという記載があるが、位置づけが明解でない。(総会にて話す)
- ・ 議事次第について：

総会の閉会前に柴田拓二先生の日本建築学会教育賞受賞の披露を行う。

(前支部長、現支部長の推薦による受賞であること、創設年の受賞であることから、披露する。
表彰式前のため、披露のみとし、懇親会に招待する。受賞後のイベントは、別途。)

7 北海道支部技術賞について

(武田 / 資料 5 4)

学術委員会からの北海道支部技術賞創設について提案
賞設立の主旨と規定(案)の提案。

各専門委員会からの意見を提示。

(石山) 各受賞者に論文執筆を義務付けてはいかがか。

(支部長) その場合、論文費用は、無料とすべき。

(星) 人なのか、団体なのか、技術へなのか賞の対象も明確でない。「人」でなくてよいか。

(溝口) 選考委員会の人に応募できない仕組みにすべき。

(支部長) 利害関係者は、対象から除外する必要がある。

(武田) 論文は入れない方針でどうか。

(支部長) 技術があればOKだろう。論文があれば受賞できないということはない。

(田中) 審査方法の明記は、不要か。規約案3条の「建築・都市」の記載は、不要でないか。

(小篠) 審査方法は、他の賞でも記載していない。

(支部長) 審査方法の運用内規のようなものは必要だろう。

(武田) H19 秋に募集し、H20 の総会で表彰できるようにしたい。規定の詳細は、今後検討することとして、賞の創設を総会の議案としたいので、本常議員会で承認してほしい。

(石山) 団体への表彰などの場合は、団体の定義も必要だろう。(例：北海道/北方建築総合研究所/北方建築総合建築総合研究所 課など・・・) その当たり明確にした上で、議案とすべき。

(支部長) 賞の創設についてを議案として提出する。

8 本部災害調査委員会市民講座企画案の応募について

(司会 / 回覧資料)

- ・ 報告・・・・・・了承・

9 委員会委員の委嘱について

(司会 / 回覧資料)

- ・ 報告・・・・・・了承。

10 後援、共催依頼について

(司会 / 回覧資料)

- ・ 報告・・・・・・了承。

次回は、総会 5月17日

以上